

宝蔵寺の墓施餓鬼

8月14・15日に宝蔵寺で墓施餓鬼が行われました。

宝蔵寺は新井宿駅からほど近い真言宗豊山派のお寺で、江戸初期には創建されていたと言います。墓施餓鬼は毎年お盆にこのお寺で行われる行事ですが、川口市内はもとより全国でも珍しい風習です。



墓施餓鬼には親族一同が集まるのが恒例となっていて、お盆の帰省も兼ねています。

檀家の人は自分たちのお墓に提灯を飾り、お線香を焚きます。朦々たる煙です。



お出まし前の儀式でしょうか？厳粛な雰囲気です。



写真では暗くてわかりませんが、ご住職が一つ一つ墓石の前に来て、鈴を鳴らし読経をして回ります。

檀家に人たちは住職の供養が終わると三々五々として帰って行きます。

そもそも施餓鬼とは餓鬼道に落ちて成仏できずに俗世をさまよう無縁仏たちに食べ物を布施して供養するという仏教の儀式です。本来は時期に限らないのですが、お盆に行われるのが一般的です。

由来はわかりませんが、どこのお寺でもお盆の時期にはご僧侶が檀家の家を回って施餓鬼をするのですが、あまりに忙しいので、逆に檀家一同に集まつてもらうことになったという説をいう人もいます。この墓施餓鬼はいろんな地域の人が購入する新しい霊園では成立しないので、古い家が残る、地域と密着したお寺ならではの風習ではないかと思います。宝蔵寺・多宝院の檀家さんはほとんどが西新井宿、新井宿の人たちだそうです。この辺はまだまだ村の名残を残しています。